

事務事業評価シート（評価対象年度：令和 2 年度）

1. 基本的事項【PLAN】

①事務事業名		史跡海会寺跡広場施設維持管理事業				②事業番号		7616	
③事業類型		4. 施設等維持管理事業		④開始年度		平成 7 年度		⑤終了予定年度	
⑥根拠法令等		法令 ☐ 条例 ☐ 規則 ☐		要綱 ☐ 計画等 ☐ その他 ☐		法令等の名称		史跡海会寺跡広場条例等	
⑦実施手法		直営 ☐ 全部委託 ☐ 一部委託 ☐		補助・負担 ☐ その他 ☐					
⑧関連予算科目コード		款 9		項 5		目 10		細目 3	
⑨担当部名		⑩担当課名				会計		一般会計	
教育部		生涯学習課							

2. 事務事業の現状把握【DO】

〔1〕事務事業の目的・事業内容

(1)対象(誰、何に対して事業を行うのか)		対象指標(対象者数を表す指標)		単位	
① 史跡海会寺跡広場		① 施設数		件	
② 利用者		② 市の人口		人	
(2)事業内容(具体的な事務事業の内容、どのような方法で実施しているか)		活動指標(活動の量を表す指標)		単位	
国史跡であり、史跡公園として整備されている海会寺跡を、歴史的環境に触れる場として、安全で快適な施設として、清掃や、簡易な施設修繕、枯れ木伐採などを管理を行う。 設置後20年以上経過していることから、経年劣化による不具合や、型式失効(メーカー推奨交換時期)をむかえた設備は、補助金等の財源確保に努めつつ修繕を行っている。		① 修繕等箇所		箇所	
		②			
		③			
(3)意図(対象をどのような状態にしたいか、何をねらっているのか)		成果指標(意図の達成度を表す指標)		単位	
当該設備を安全かつ快適な環境に保つことで、設備の長寿命化をめざし、市民に歴史的環境に触れる場と機会を長期的に提供できる環境を整える。		① 利用者の事故件数		件	
		② 計算式			
		③ 計算式			
(4)結果(対象を意図する状態にすることで、何に結びつくか。上位施策との関連)		総合計画体系上の位置付け			
当該設備を安全かつ快適な環境に保つことで、設備の長寿命化をめざし、市民に歴史的環境に触れる場と機会を長期的に提供できる環境を整える。 結果的に、(1)-(5)-(1)-(1)文化財の把握と公開と、(1)-(5)-(1)-(2)文化財の保存と活用にもつながる。		政策(章)		1 すべての人が尊ばれ、その個性が発揮できるまち	
		施策大(節)		5 まちの風土や歴史的資産が今に息づくとともに、これらを基盤とした新たな文化が花開くまちをめざします	
		施策中		1 歴史的資産の活用	
		施策小		3 歴史的環境に触れる場と機会の充実	

〔2〕各種指標値、事業費の推移

	指標名	単位	H30実績	R1実績	R2実績	R3見込	R4目標	
対象指標①	施設数	件	1	1	1	1	1	指標値の推移における 特殊要因などの説明
対象指標②	市の人口	人	61,984	61,457	60,795	—	—	
活動指標①	修繕等箇所	箇所	2	1	1	1	2	R2年度の活動指標の 減は、園内の安全確保 のため枯木伐採、剥落 したタイルの修繕を職 員が行ったため。
活動指標②								
活動指標③								
成果指標①	利用者の事故件数	件	0	0	0	0	0	事業費などの推移にお ける特殊要因などの説 明
成果指標②								
成果指標③								
事業費	投入人員	人		0.50	0.50	0.50		効率的な事務実施を 目的に、史跡海会寺跡 広場維持管理委託料を 増額。 その他特定財源につ いては、水なす基金か らの繰入金。
	任期付職員	人		0.00	0.00	0.00		
	臨時職員	人		0.40	0.40	0.40		
	人件費(投入人員×単価)	千円		4,523	4,534	4,534		
	直接事業費	千円		3,740	3,811	4,020		
財源内訳	総事業費	千円		8,263	8,345	8,554		
	国庫支出金	千円		0	0	0		
	府支出金	千円		0	0	0		
	受益者負担金	千円		0	0	0		
	その他特定財源	千円		600	500	0		
	一般財源	千円		7,663	7,845	8,554		

〔3〕事務事業開始の経緯、状況の変化、評価結果への対応

①この事業を開始したきっかけは何か。	国史跡海会寺跡の保存活用を目的として、史跡広場として整備したこと。
②開始から現在までこの事務事業を取り巻く状況は、どのように変化したか。また、今後どのように変化していくと考えられるか。	平成7年度のオープン以来、すでに20年以上が経過し、広場の施設に老朽化が進んでいる箇所が増えている。今後、全面的な再整備の必要性がある。
③前年度の評価結果を受けて行った改革・改善の取組はあるか。	・泉南市シルバー人材センターの研修(10名の会員が参加する低木の剪定研修)の場としての活用に結びつけた。効果額は概算で50千円(=10人×5,000円)。 ・利用者の危険解消を目的に、枯れ木伐採を職員が実施した(=課題の効率的な解消)。

〔1〕目的妥当性(必要性)

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

[1]の評価

A

〔2〕有効性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

[2]の評価

A

〔3〕効率性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔3〕の評価

B

4. 総合評価

5. 改革、改善案【ACTION】

＜今後の方向性＞

イ	ア. 現状のまま継続	イ. 見直しのうえで継続	ウ. 終了 ↓ (年まで)	エ. 休止 ↓ (年から)	オ. 廃止 ↓ (年から)
b	<今後の展開方針>				
	a. 重点化する(集中的なコスト投入) b. 手段を改善する(実施主体や実施手段を変える) c. 効率化する(コストを下げる) d. 簡素化する(規模を縮小する) e. 統合する(他の事務事業と統合する)				
①改革、改善の具体案、実施年度など	・危険個所の迅速な解消のために、職員が応急処置を実施。 ・応急処置後は、予算を重点配分し、危険個所の解消を実施。				
②改革・改善を実現するうえで、解決すべき課題及び考えられるその解決策	・日常的な点検による危険個所の把握と職員による応急処置を継続。				